



森と海の自然科 「川と街道を訪ねてーNo.8」

伏見港、新高瀬川、濠川、宇治川派流と酒蔵探訪(記録)

1. 日時: 平成30年1月25日(木)10時00分
2. 集合場所: 京阪中書島駅
3. 参加者: 14名 (浅野、児玉、坂根、秦、前野、倭、上條、山下、乾、日景、中西、万井、李三、莊村、順不同)

今回は淀川中流域(別称宇治川)の伏見港周辺を散策し、合わせて酒蔵、御香宮神社などを見学した。



日本列島全体が大寒気におおわれ、京阪神でも最低気温が氷点下を下回った寒い朝であったが、京阪中書島駅から、伏見港公園に向け散策を開始した。伏見港公園には三十石船のモニュメント等が配置され、往時を偲ばせる工夫がされていた。公園周辺の土手にはスイセンの花が満開であった。また、あちらこちらに鳥たちが排泄したセンダンの種が落ちており、この時期の数少ない風物詩の1つかと思う。



伏見みなと橋



三十石船のモニュメント



スイセンの花

寒さと強い風のため新高瀬川河口見学は取りやめ公園から三栖閘門の付属資料館へ直行する。閘門とは水位の異なる川と川を結ぶ通船施設である。三栖閘門は昭和4年に供用開始されたが、水運の衰退、天ヶ瀬ダム の築造等による宇治川の水位低下により、昭和37年にその役割を終えた。実稼働は30数年と短い期間であった。その後、長い間放置されていたが、施設周辺が公園整備されるとともに、平成19年に国の近代化遺産に認定され、舟運文化を伝える貴重な施設として現状保存されている。



三栖閘門(みすこうもん)



江戸期の伏見港のジオラマ

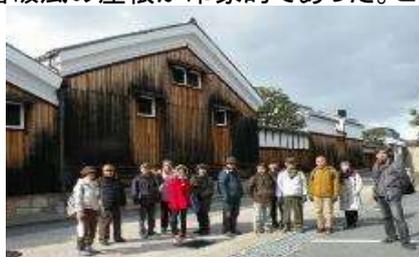


宇治川右岸堤防

暖かい資料館館出て、日差しはあるが寒風の強い宇治川の堤防道路を歩き、宇治川派流河口から派流沿いの道を通って伏見の街中へ戻る。長建寺を経て、鳥せい本店で昼食を取り、食後大倉記念館を見学する。ここには酒造用具類が保存展示され、伏見の酒造りをわかりやすく紹介していた。それから坂本龍馬の定宿、寺田屋に立ち寄り、西岸寺、東本願寺伏見別院を経て、大手筋商店街を通り抜け御香宮神社へ至る。この神社の表門は伏見城の大手門を移築したもので、豪壮な唐破風の屋根が印象的であった。ここで今日の行動予定を終える。



大倉記念館内の展示物



大倉記念館前で記念撮影



御香宮神社の表門

解散後、追加の散策コースも事前に提案されていたが、今日とはとにかく寒く早く暖をとるため、全員足早に街中の雑踏に吸い込まれて行った。

写真: 坂根 記録: 莊村